

# 生命保険料でみた世界の生保市場

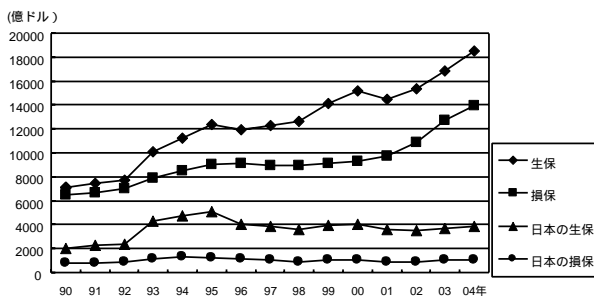
保険研究部門 松岡 博司  
matsuoka@nli-research.co.jp

スイス再保険会社はその機関誌“sigma”において毎年、世界の生損保収入保険料の動向に関するレポートを公表している。本稿は同資料中のデータを主な情報源として、世界の生保市場の状況を簡単に見ようとするものである(注1、2)。

## 1. 成長軌道に戻った世界の生命保険料

世界の生命保険料収入額は2001年、主要国の株価低迷を背景に減少に転じたが、その減少傾向は持続せず、再び成長軌道に戻った。高齢化が進展する中、各国で年金制度等が見直され生保・年金へのニーズが顕在化している。また変額タイプ、確定拠出タイプの投資型商品へのニーズが高まっている。わが国でも一時払いの変額個人年金の好調等から生命保険料収入は回復基調にあるが、いまだ世界全体の力強い拡大の波には乗り切れていない状況にある。

図表 - 1 世界の生命保険料と損害保険料の推移



(資料) スイス再保険“sigma”各号より作成

## 2. 生命保険料収入の上位国

各国の生命保険料が世界全体に占めるシェアでは、わが国は米国に次ぐ第2位の地位にある。保険料シェア上位5カ国はここ数年不動の順位が続いてきたが、2000年から2004年で見れば、日米英の上位3カ国がシェアを落とす一方で、仏独伊蘭といった欧州大陸諸国のシェアが拡大している。また、韓国・中国・台湾という東アジア勢が第7位～第9位を占めた。

図表 - 2 生命保険料収入の上位10カ国

(単位: 位, 百万ドル, %)

04年順位	国名	04年保険料収入	04年シェア	00年シェア	00年順位	00年から04年のシェア増減
1	米国	494,818	26.8	29.1	1	2.3
2	日本	386,839	20.9	26.4	2	5.5
3	英国	189,591	10.3	11.8	3	1.6
4	フランス	128,813	7.0	5.6	4	1.4
5	ドイツ	84,535	4.6	3.7	5	0.9
6	イタリア	82,083	4.4	2.4	7	2.0
7	韓国	48,680	2.6	2.9	6	0.3
8	中国	35,407	1.9	0.8	18	1.1
9	台湾	33,851	1.8	1.0	14	0.8
10	オランダ	31,512	1.7	1.4	11	0.3

(資料) スイス再保険“sigma”各号より作成

## 3. BRICsの生命保険市場

最近、その頭文字をとってBRICsと称されるブラジル(Brazil)、ロシア(Russia)、インド(India)、中国(China)の4カ国が次代の経済大国として注目を集めている。これらは広い国土と豊富な資源、膨大な人口を持つ国である。

インフラ、社会制度などが世界基準に近づくと  
れ、その潜在成長力が認知されるようになった。

図表 - 3 B R I C s 各国の人口と面積

	人口(億人)		面積 (万km <sup>2</sup> )
	2000年(順位)	2020年推計	
ブラジル	1.72 (5位)	2.10	851
ロシア	1.46 (6位)	1.29	1708
インド	10.17 (2位)	13.12	329
中国	12.75 (1位)	14.29	960
日本	1.27 (9位)	1.24	38

(資料) 総務省統計局「世界の統計 2005」より作成

B R I C s は生命保険市場としても今後の有望市場として注目を浴びつつある。2004年の生命保険料順位は中国の第8位を筆頭に、インド第18位、ブラジル第24位、ロシア第31位となっている。現時点の世界における地位は中堅の上位といったところであろうか。世界シェアは4カ国をあわせても3.46%にすぎない。

しかし、94年から04年まで、および00年から04年までの増加率(ドル換算後の生命保険料の対比)を見ると、ロシアは世界平均をやや上回る程度であるが<sup>(注3)</sup>、他の3国は2桁の増加率を記録し、高い成長を遂げている。

図表 - 4 B R I C s 各国の生命保険料収入の状況

	生命保険料			保険料の増加率(年率)	
	金額(百万ドル)	シェア(%)	順位	(94年~04年)	(00年~04年)
ブラジル	8,199	0.44	24	18.6%	39.9%
ロシア	3,544	0.19	31	7.6%	5.7%
インド	16,919	0.92	18	16.5%	22.1%
中国	35,407	1.92	8	36.4%	35.6%
日本	386,839	20.93	2	2.1%	0.9%
世界合計	1,848,688	100		5.1%	5.0%

(資料) スイス再保険 " sigma " 各号より作成

また、人口1人あたりの生命保険料額や経済規模であるGDP(国内総生産)に対する生命保険料額の割合を見ると、いまだ世界平均には遠く及ばない。この分、成長余地が大きいとも言え、生命保険市場としての今後に期待感が高まっている。

有望市場には成長フロンティアを求めて先進諸国の保険会社が参入を図ろうとする。

しかし、早くから外国企業の進出を自由化していたブラジル以外の3国は近年まで外資に対

図表 - 5 B R I C s 市場の成長余力

	人口1人あたり 生命保険料(ドル)		生命保険料の GDPに対する割合(%)	
	00年	04年	00年	04年
ブラジル	12.9	45.9	0.36	1.36
ロシア	19.5	24.8	1.13	0.61
インド	7.6	15.7	1.77	2.21
中国	9.5	27.3	1.12	2.53
世界合計	3165.1	3044	4.88	4.55
日本	252.1	291.5	8.7	11.06

(資料) スイス再保険 " sigma " 各号より作成

する参入制限を行ってきた国であった。世界経済の一体化傾向が強まり経済成長が続く中で、3国は保険市場開放策を段階的に進めてきている。現時点で残っている外資参入制限は以下のようなものである。

ロシア：外国企業の資本の合計を保険市場全体の資本総額の25%以内とする。

外国資本が49%を超える保険会社は生命保険事業を行うことはできない(ただし、EU域内の保険会社の場合はこの制限の対象外となる)

インド：外国企業は現地資本との合弁の形でしか保険事業に参入できない。外国企業の資本参加比率の上限は26%。

中国：外国企業は現地資本との合弁の形でしか生命保険事業に参入できない。生命保険会社に対する外国企業の資本参加比率の上限は50%。

こうした制限はあるものの、特に中国、インドに対しては、各国の代表的な保険会社が参入し、現地企業(従来からの強力な地盤を持つ国営会社や元国営会社もある)を巻き込んで激しい競争が始まっている。

(注1) 当ニッセイ基礎研REPORTでは、これまでも同データを用いて、00年5月、02年4月、03年4月、04年4月の各号で関連レポートを掲載させていただいている。04年の数値は " sigma No2/2005 (http://www.swissre.comで閲覧可能) " を使用した。

(注2) 同データ上のわが国生命保険料には簡易保険の保険料やJA共済の掛け金等が含まれている。ドル換算の保険料であるため為替変動の影響を受ける等の問題はありますが、同データは統計の連続性があり、重要な指標を与えてくれるデータとなっている。

(注3) ロシアの04年単年の現地通貨ベースでのインフレ調整後増加率は31.6%と大幅な減少となっている。背景には、税制が変更されたため、それまで大量に販売されていた節税目的の短期生命保険が売れなくなったことがある。